

【2024 年 5 月 15 日 発行】

環境経営レポート



FUKUYOSHI

福吉工業株式会社

《2023 年 4 月～2024 年 3 月》

目 次

1. 環境経営方針	1
基本理念	1
行動指針	1
2. 事業活動の規模	2
3. 推進組織図	3
4. 環境経営目標とその実績	4
5. 環境経営計画の取組みとその評価	6
6. 次年度の環境経営目標と環境経営計画	7
7. 環境関連法規等の遵守状況と確認及び評価の結果 並びに違反訴訟の有無	8
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	9

1. 環 境 経 営 方 針

＜基 本 理 念＞

福吉工業株式会社は、私たちが生活している限られた環境及び資源を守り、住み続けられる地域づくりを実現することが重要な課題であると認識し、地元での事業活動を通して、社内全員一丸となり環境に優しい施工、限りある資源の活用に努め、環境負荷の軽減に取り組めます。

＜行 動 指 針＞

1. 事業活動に当たり、環境に配慮した工事施工をします。
2. 事業活動においては環境に配慮した資材や製品を積極的に使用します。
3. 二酸化炭素排出量(軽油・ガソリン・電力等)の削減に努めます。
4. 省資源、省エネルギーに努め、環境負荷の軽減を図ります。
5. 節水に努め、水使用量の削減に努めます。
6. ボランティア活動を通して地域環境美化と環境意識の向上に努めます。
7. 関係する環境関連法規を遵守します。

この方針を全社員に周知徹底し、環境に関する意識の向上を図ると共に行動指針を具体化するための環境経営目標を設定し、定期的な見直しと環境経営システムの継続的改善を誓約します。

令和 5年 8月 1日
福吉工業株式会社
代表取締役 吉田 貴幸

2. 事業活動の規模

1. 事業所及び代表者名

福吉工業株式会社

代表取締役 吉田 貴幸

2. 所在地

〒971-8101 福島県いわき市小名浜字中原 16-5

3. 事業の概要

◆ 総合建設業

福島県知事許可（特－ 5）第32385号

（土木 とび・土工 石 管 鋼構造物 舗装 しゅんせつ 塗装 水道施設
解体工事業）

福島県知事許可（般－ 6）第32385号

（建築 大工 屋根 タイル・れんが・ブロック 内装仕上工事業）

福島県知事許可（般－ 3）第32385号

（機械器具設置工事業）

◆ 不動産業

福島県知事許可（1）第3422号

4. 認証・登録の対象組織、活動

・対象組織 福吉工業株式会社 本社

・事業活動 総合建設業（土木、とび・土工、石、管、舗装、水道施設工事業）
機械器具設置工事業、不動産業

5. 環境管理責任者氏名及び、連絡担当者

環境管理責任者： 代表取締役 吉田 貴幸 統括部長 竹森 義光

事務局担当者： 石野 直美 大友真由美

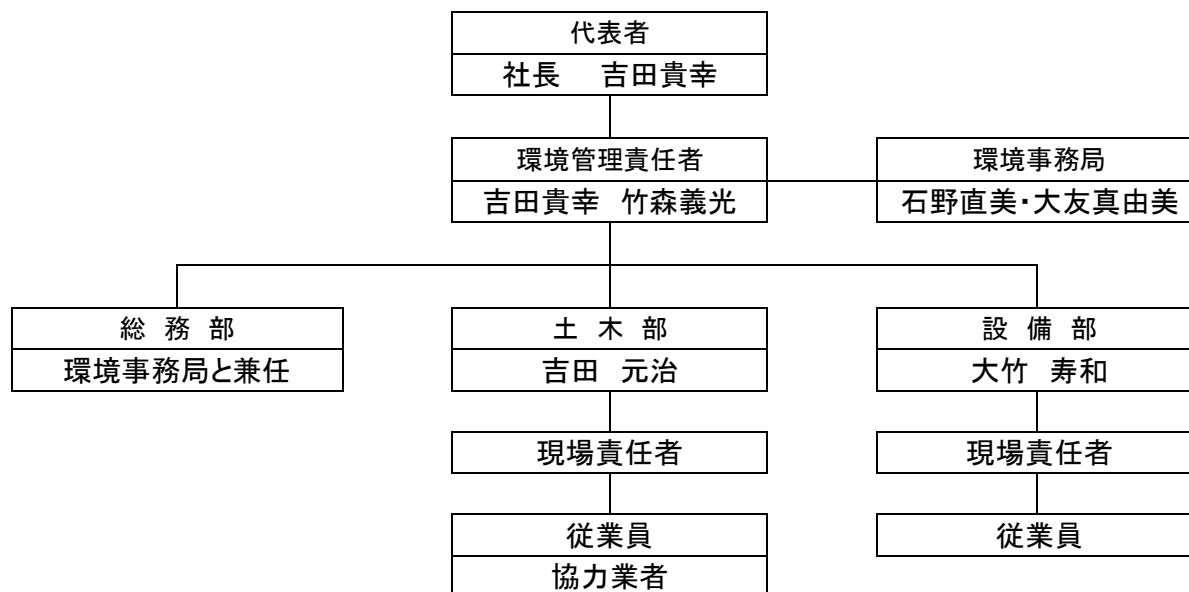
連絡先： TEL 0246-73-8380

FAX 0246-73-8381

6. 事業規模

活動規模	単位	令和3年度	令和4年度	令和5年度
売上高	千円	654,460	556,518	519,804
従業員	人	19	18	18
本社床面積	m ²	314	314	314

3. 推 進 組 織 図



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・経営における課題とチャンスを確認にする ・経営方針を定め誓約する ・効果的で十分な実施体制を構築し、各自の役割・権限を定め周知する ・EA21 全体の取り組み状況及びその効果を把握し、評価する
環境管理責任者	・環境システム全体を構築し運用する ・環境経営目標及び環境経営計画を策定する ・外部からの環境に対する苦情や要望を受け、必要な対応を行う ・環境経営方針・環境経営目標及び環境経営計画を達成するために必要な取り組みを実施する ・EA21 全体の取り組み状況及びその効果を把握し、定期的に評価する ・実施状況に問題がある場合には、是正処理を行い必要に応じて予防措置をする ・環境関係法規等のとりまとめ及び遵守状況の報告をする ・環境経営レポート作成し公表する ・全社員への教育訓練の実施
環境事務局	・環境管理責任者を補佐する ・実施状況のデータのとりまとめと記録、管理、報告をする ・外部コミュニケーションの窓口 ・環境上の緊急事態への準備及び対応をする
全従業員 協力業者	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加 ・ゴミの正しい分別 ・廃棄物排出の際の正しい分別及び廃棄 ・各従業員、協力業者による廃棄場所の整理及び片付けの遂行 ・省資源、省エネルギーに努め、環境負荷の軽減を図る

4. 環境経営目標とその実績

当社における 2023/4/1～2024/3/31 の環境負荷実績を把握し、2024 年～2026 年までの目標を下記の通り定め活動を開始しました。

<環境経営実績>

* 購入電力の排出係数は 0.496kg CO₂/kwh《東北電力(株)》を使用しています。

◆ 暫定期間 (2023 年 4 月～2024 年 3 月) のデータによる

目 標 項 目		基 準 値		実 績 項 目		
		基 準 日 令和 4 年度	単 位	令和 5 年度		
				目 標	実 績	評 価
本 社	電気使用量の削減	16,147	kWh	15,986	16,405	×
	※二酸化炭素排出量の削減	8,008	kg-CO ₂	7,928	8,136	
共 通	ガソリン使用量の削減	11,219	ℓ	11,163	10,768	○
	※二酸化炭素排出量の削減	26,028	kg-CO ₂	25,898	24,981	
現 場	軽油使用量の削減	27,541	ℓ	27,404	17,529	○
	※二酸化炭素排出量の削減	71,055	kg-CO ₂	70,700	45,224	
本 社	一般廃棄物の削減	670	kg	664	715	×
現 場	産業廃棄物の管理	設計書に準ずる	kg	設計書に準ずる	設計書に準ずる	○
本 社	水使用量の削減	102	m ³	101	104	×
現 場	建設リサイクルの推進	100	%	100	100	○
現 場	施工設備等の環境性能の向上	環境配置型の建設機械の使用		推進	推進	○
共 通	自社の事業活動に関する取組み	ボランティア清掃活動 年 1 回		年 1 回	年 1 回	○
		現場周辺住民への説明・清掃 随時		随時	随時	○

※化学物質の使用はありません

<環境経営目標>

		基準値		中期目標		
		2023 年度	単位	2024 年度	2025 年度	2026 年度
本社	電気使用量の削減	16,405	kWh	16,241	16,158	16,076
	※二酸化炭素排出量 削減	8,136	kg-CO ₂	1%減	1.5%減	2%減
共通	ガソリン使用量の削減	10,768	ℓ	10,721	10,667	10,613
	※二酸化炭素排出量 削減	24,981	kg-CO ₂	0.5%減	1%減	1.5%減
現場	軽油使用量の削減	17,529,	ℓ	19,191	19,095	18,998
	※二酸化炭素排出量 削減	45,224	kg-CO ₂	0.5%減	1%減	1.5%減
本社	一般廃棄物の削減	715	kg	707	704	700
				1%減	1.5%減	2%減
現場	産業廃棄物の管理	建設リサイクルの推進 ※設計書に準ずる	kg	建設リサイクルの推進 ※設計書に準ずる		
本社	水使用量の削減	104	m ³	103.0 1%減	102.0 1.5%減	101.0 2%減
現場	建設リサイクルの推進	100	%	100 維持	100 維持	100 維持
現場	施工設備等の 環境性能の向上	環境配慮型の 建設機械の使用		推進	推進	推進
共通	自社の事業活動に 関する取組み	ボランティア清掃活動 年 1 回		年 1 回	年 1 回	年 1 回
		現場周辺住民への 説明・清掃 随時		随時	随時	随時

※化学物質の使用はありません

5. 環境経営計画の取組みとその評価

取組項目		活動内容	取組状況	評価	
本社	CO2	・電気使用量の削減	・不在箇所、昼休みなどの電気消灯の徹底	不在、不要箇所の消灯やエアコンの適温化等で節電を図っているがコロナ感染予防や熱中症対策などでエアコンの稼働が増えたが、削減は出来ている。引き続き健康を害さない程度に最低限のエアコン使用などを推進し、節電を図る。	○
			・PC やコピー機等の機器は省電力に設定		○
			・空調の適温化（冬 20℃程度、夏 27℃程度）を徹底及び定期的なエアコンのフィルター清掃		○
			・ブラインドの使用により外部からの熱の出入りを調節		○
共通	削減	・ガソリン、軽油使用量の削減	・エコドライブの徹底（アイドリングストップ など）	エコドライブや事前段取り、早めのメンテナンスを徹底したが遠方の現場があったこと、営業での外出が増え使用料が増加、目的未達成となってしまった。今後もエコ運転や事前の段取りの徹底など使用料の削減を図る。重機の使用前点検は出来ている。現場に応じた選定も実施できている。引き続き推進していく。	○
・車両運行時早めのアクセルオフ			○		
・重機等は出来るだけパワー操作をしない			○		
・車両、重機の始業点検の実施			○		
・作業規模に応じた建設機械の使用			○		
・ダンプ・トラック等はエコドライブを徹底 急発進抑制、アイドリングストップ の実施			○		
本社	・一般廃棄物の削減	・コピー用紙削減（両面コピー・裏紙利用の徹底）	トナーカートリッジのメーカー持ち帰りは出来ている。また両面コピー等は提出書類の増加や機密文書等でできない場合が多く未達成となった。	×	
		・トナーカートリッジは納入業者に持ち帰ってもらう		○	
現場	・産業廃棄物の管理	・保管場所の管理	保管場所、manifest、契約書の管理は各担当者が確認し、管理できている。委託先とのコミュニケーションを密にし確認できている。	○	
		・manifest、契約書類の管理		○	
		・委託先の状況確認		○	
本社	・水道使用量の削減	・洗車時、手洗い時の節水	朝礼時、節水を周知し各自実施できた。引き続き節水に努める。	○	
		・こまめに水を止める		○	
		・水道配管からの漏水を定期的に点検する		○	
現場	・施工設備等の環境性能の向上	・しっかりした工程管理で常に工程短縮に取り組む	排ガス規制や騒音規制に適合した建設機械を使用するなど環境に配慮した施工に努めていく。	○	
		・環境に配慮した資材や製品の使用		○	
		・排ガス対策型、低騒音型など環境配慮型の建設機械を使用する。		○	
共通	・事業活動関連	・会社周辺地区の清掃活動（ボランティア清掃活動）の実施	全従業員が事務所周辺の清掃を行っている。又現場では出来るだけ地域住民の方への説明をしている	○	
		・工事開始時、現場周辺住民への説明		○	
		・工事現場周辺の清掃の実施		○	

6. 次年度の環境経営目標と環境経営計画

取組項目	次年度目標	活動内容
・ CO2 排出量	前年度比 1 %減	・ 電気、ガソリン、軽油使用量の削減
・ 電気使用量の削減	前年度比 1 %減	・ 不在箇所、昼休みなどの電気消灯の徹底
		・ PC やコピー機等の機器は省電力に設定
		・ 空調の適温化（夏 28℃程度、冬 20℃程度）を徹底
		・ ブラインドの使用により外部からの熱の出入りを調節
・ ガソリン、軽油使用量の削減	前年度比 0.5%減	・ エコドライブの徹底（アイドリングストップなど）
		・ 車両運行時は出来るだけ早めにアクセルを行う
		・ 段取り良い前準備で忘れ物をなくし折り返し運行をなくす
		・ 重機等は出来るだけフルパワー操作をしない
		・ 重機類は始業点検を実施
		・ 作業規模に応じ建設機械などを使用しエネルギーの消費を抑える
		・ タンク、トラック等はエコドライブを徹底（急発進抑制、アイドリングストップの実施）
・ 一般廃棄物の削減	前年度比 2 %減	・ コピーは裏紙使用や両面コピーに努める
		・ トナカートリッジや用紙梱包箱等は納入業者に持ち帰ってもらう
・ 産業廃棄物の管理 （建設リサイクルの推進）	100%維持	・ 保管場所、マニフェスト、契約書類の管理
		・ 建設リサイクル法に基づき建設副産物を処理する
		・ 委託先の状況確認
・ 水道使用量の削減	前年度比 1 %減	・ 節水を全従業員に周知させる
		・ 水道配管からの漏水を定期的に点検する
・ 施工設備等の環境性能の向上	当該環境活動の遵守	・ 環境配慮型の建設機械を使用する（排ガス対策型、低騒音型、等）
		・ しっかりした工程管理で常に工程短縮に取り組む
・ 環境保全の取組推進	年 1 回以上	・ 現場周辺や事務所周辺は常に清掃し、整理整頓に努める
		・ 現場で地域住民への説明をする

7. 環境関連法規等の遵守状況と確認及び評価の結果並びに違反訴訟の有無

＜当社に適用となる主な環境関連法規＞

法規名	遵守事項	遵守状況
建設業法	建設業者の資質向上や建設工事の請負契約の適正化をはかりことにより、建設工事の適正な施工を確保し、発注者を保護する。	遵守
廃棄物処理法	廃棄物の排出を抑制し、廃棄物の適正な分別 委託契約書締結・マニフェスト管理表発行及び報告・保管	遵守
建設リサイクル法	建設副産物センターへの登録及び報告書の提出	遵守
自動車・家電リサイクル法	自動車の廃棄・家電製品の廃棄	遵守
フロン排出抑制法	簡易点検	遵守
道路交通法	免許証の保持・有効期限の確認 整備管理、始業点検の徹底 スピード超過運転等の危険運転の抑止	遵守
排出ガス、低騒音型建設機械に関する規定	ステッカーの確認・始業点検の実施	遵守
グリーン購入法	可能な限り環境物品等を選択するよう努める	遵守

＜環境関連法規への違反、訴訟などの有無＞

2024年3月31日の環境関連法規遵守状況の確認において、環境慣例法規への違反はありません。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ございません。

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

エコアクション21の取組みを始めてまだ 8 ヶ月ですが、環境問題に対して現場や事務所で身の回りのできることを取り組み、環境への負荷軽減に努めております。

ガソリンについては、営業車で外出が多くなったことと、猛暑によるエアコンの使用などにより使用量が増加しました。

一般廃棄物については書類などの紙類が多く、今後は更に裏紙使用や両面コピー、ペーパーレス化に努めていきます。

建設業界では、建設機械の二酸化炭素排出量が多く、少しでも二酸化炭素を削減することが課題の一つです。

今後は建設機械車両、普通自動車において、ハイブリッド車の購入を検討したいと考えていますが現実的にはコストが高く、購入するのに難題があります。

それでも、微力ですが一人一人が環境への意識を高め、身近なことから出来ることを実践し継続していきたいと思っております。

2024 年 5 月 15 日

代表取締役 吉田貴幸